

平成23年度 大学の世界展開力強化事業構想の概要【キャンパス・アジア中核拠点形成支援】

大学名	立命館大学
構想名称	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス
相手大学等名 (国名)	東西大学校(大韓民国)、広東外語外貿大学(中華人民共和国)

【構想の目的及び概要】

1. 構想の目的

本構想は、日中韓の選抜された学生（以下パイロット学生という）がそれぞれのキャンパスを国際移動し、共同運営される講義群や各大学の講義群を履修することで、日中韓の各言語・文化・文学・歴史等を深く理解し、とりわけ文化交流・教育研究分野で活躍する優秀な人材を育成する拠点の形成を目的としている。アジアに対する伝統的日本文化の発信地である京都と、東アジアの一大ハブ港である釜山、広州とのネットワークにより、日中韓の伝統文化・最新文化の両者に通じた高いコミュニケーション能力を有した人材の育成が目指され、卒業後も含めた日中韓次世代リーダーのネットワーク・人材バンクを構築する。

2. 構想の背景

平成15年以降、立命館大学・東西大学校(韓国釜山市)・広東外語外貿大学(中国広州市、平成18年から参加)の三大学間で高度な遠隔システム(テレビ会議)による講義(以下日中韓連携ゼミという)を実施し、正課科目として各大学が単位を認定してきた。また夏季と春季には、7~10日間程度の集中授業をローテーションで各国において実施し、講義・フィールドワーク等を実施してきた。これらを通じて、東西大、広東外語外貿大の外国語学部の学部生・院生と立命館大文学部・文学研究科の学部生・院生が、現代日中韓の各文化・経済・社会の諸問題や教科書問題・領土問題等の共同テーマに基づいて調査・研究を行い、それを相互に発表し、議論を行ってきた。この8年間で、日中韓でのべ703名がこのプログラムに参加し、修了者は留学先の国などで大学教員、中高教諭、翻訳通訳業などで活躍している。また日本のNHKをはじめ、日中韓三カ国のマスコミでも取り上げられ、内外で高い注目を受けてきた。その成果として、相互の留学率も高まり、また職員の相互研修も実施し、立命館大学と広東外語外貿大の間では修士課程の複数学位制度が設けられるなど、三大学間では共同運営キャンパスのための基盤が構築されてきた。

3. 構想の概要

以上の実績を基礎とし、以下の事業を行うことでキャンパス・アジアとしての発展・拠点形成を図る。

- (1) 上記の日中韓連携ゼミに加え、さらに中国語・韓国語による東アジア言語・文化・文学・歴史等に関わる各大学の学生が受講可能な共同講義群を開講し、日中韓複数言語に堪能な人材を育成する。
- (2) 選抜されたパイロット学生(各国約10名)を中心に、日中韓連携ゼミ・ショートステイに加え、総計2年間の移動キャンパスをプログラム化し、日中韓の言語・文化・文学・歴史等を修得できるそれぞれの自国語を基本とするカリキュラムを整備し、単位互換によって単位認定する。
- (3) 日本側は、パイロット学生用移動キャンパスプログラムも含めて、文学部東洋研究学域現代東アジア言語・文化専攻のカリキュラムに位置づけ(中国側では東方語言文化学院、韓国側では東西大学外国語学部の正課科目として位置づけ)、移動キャンパス以外は原則として文学部全学生に履修を推奨する。
- (4) パイロット学生を中心に、希望する各大学所属学生も含めて、現在有する文学部の豊富な国内インターンシップや、韓国・中国でのインターンシップに学生を相互参画させ、キャリア形成に力を入れる。また、既に実施されている広東外語外貿大学および今後新設される東西大学校との修士課程の複数学位制度を利用して、アジアで広く通用する大学院レベルの高等教育キャリアの形成も促進する。
- (5) 学士力の検証、教育の質の保証のために、これまで実施してきた三大学教職員合同会議を強化・定例化し、成績管理等の協働性を高めるとともに、語学力などの客観的数値に基づく検証も実施し、卒業時には本プログラム修了証を共同で発行する。また、日本側では到達度検証として卒業論文を必修とする。
- (6) 卒業後も日中韓の本プログラム修了者のネットワークを強固に組織化し、それらを日中韓の資産として活用することを図る。また、「日中韓リーダーズフォーラム」を開催し、本プログラムの修了者・履修者や学内外の本事業関係者などが集まり、各国語の研究発表などを公開で行って、成果の公表に努める。

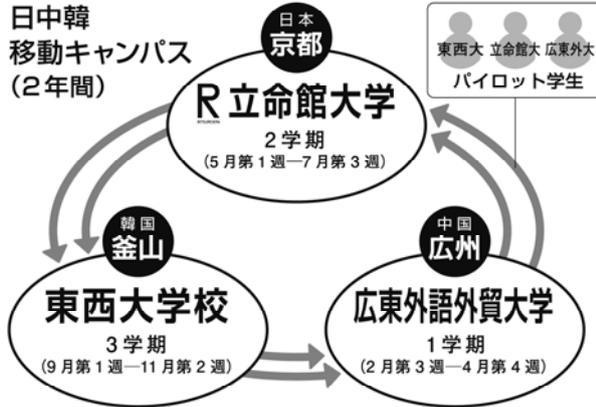
[構想の概念図]



東アジア次世代人文学リーダー養成のための
日中韓共同運営トライアングルキャンパス

CAMPUS Asia

日中韓
移動キャンパス
(2年間)



人材育成目的

東アジア次世代人文学リーダー

日中韓の高度な言語能力と人文学への深い理解を有し、同地域の諸問題を人文学的見地から洞察し、実践的に活躍できる東アジア次世代リーダー

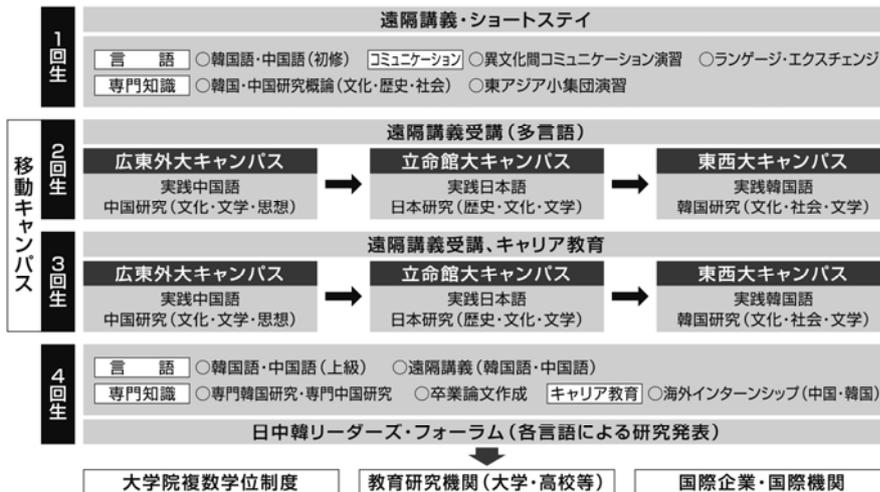
語学力 日中韓人文学専門知識 コミュニケーション能力



事業内容

- 現地学習** 移動キャンパス
 - 各国言語・各国研究の現地学習
 - 三大学学生の国際寮共同生活
- 基幹カリキュラム** 三大学共同カリキュラム
 - 日中韓連携ゼミナール
 - 日中韓文化講義
 - 三カ国ショートステイ
- キャリア支援** 現地キャリア教育
 - 企業見学・就業体験
 - 海外インターンシップ

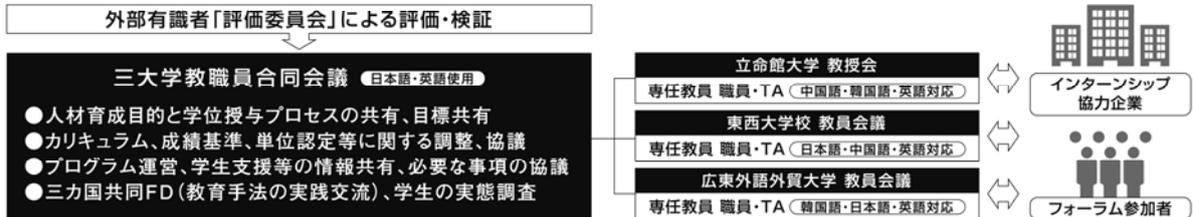
パイロット学生のカリキュラム (日本人学生の場合)



<各大学提供科目例>

- 立命館大学**
日本語、日本語ライティング、日本語講義、日本事情、日本史概説、日本文化論、現代東アジア言語文化論、京都学概論など
- 東西大学校**
基礎韓国語、韓国語ヒアリング、韓国大衆文化の理解、東アジア文化の理解、韓国文化遺産探訪、東北アジア社会文化など
- 広東外語外貿大学**
基礎中国語、中国語ヒアリング、中国語作文、中国語会話、中国事情、中日比較文化、中韓比較文化、中国文化概論など

運営体制



実績

- 日中韓遠隔講義・ショートステイを8年間共同運営 ▶ のべ703名
- 三大学交流実績 ▶ 修士・複学位(5名/3年間)、本学との正規交換留学、客員教授の相互派遣、職員相互研修
- 遠隔講義・留学を経験した卒業生によるネットワーク ▶ 教職員として相互就職、国際企業就職、大学院進学など

本事業の成果

東アジア多国間連携型
高等教育モデルの形成

東アジア人材バンクの
恒常的構築

東アジア次世代
ネットワークの形成・国際貢献



平成23年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	立命館大学
タ イ プ	A-I
構 想 名	東アジア次世代人文学リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス
<p>〔評価コメント〕</p> <p>3大学による「移動キャンパス」の構想は、これまでの長年にわたる交流・共同プログラムの実績を踏まえた意欲的な取り組みであり、4年間を見通す総合的な人材育成プログラムの開発を目指す姿勢も、高く評価できる。</p> <p>また、各国語で学ぶための支援も組織化し、キメの細かい構想であるとともに、事務体制の整備も含めて、大学として本プログラムを積極的に支えていこうという姿勢が明確である。</p> <p>なお、参加学生のキャリア形成や卒業研究に対する配慮や、次世代人文学リーダーを育成するための大学外のリソースの活用方法など、教育プログラムをさらに充実したものにするため、さらなる工夫が望まれる。</p>	